

代表選来月18日 細野氏出馬へ

激流

民主各派 主導権争い

動く前原氏、大島氏、赤松氏…

民主党は17日の両院議員総会で、海江田万里代表の辞任表明に伴う党代表選を来年1月7日告示―同18日投票で実施することを決定した。132人の国会議員のほか、地方議員、党員・サポーター（6月末現在約23万人）も郵便投票で参加する。細野豪志元幹事長は国会内で記者団に「私自身が代表選に出馬し、その任に当たるべく挑戦することを決意した」と表明。岡田克也代表代行は自身を擁立する動きがあることに「光栄なことだ」と述べた。（坂井広志）

17日午後、前原誠司元外相の衆院議員会館の事務所。姿を現したのは細野氏だった。同席したのは細野氏を支持する松本剛明元外相と長島昭久元防衛副大臣。細野氏はすでに前原氏に協力要請をしているが、そのときは前原氏が即答を避けたため、改めて協力を求めたようだ。

細野氏は、自ら率いる細野派（自誓会）に13人が所属し、立候補に必要な推薦

求めたようだ。前原氏は最終的には細野氏を支援するとの見方が強いが、同氏の協力要請に対してなかなか首を縦に振ろうとしないのは、グループ内に主戦論があるためだ。



※人数は17日の会合出席者数などを勘案

▼主戦論噴き出す

前原、細野、松本、長島の4氏といえば、衆院解散直前の11月19日に海江田氏に新党結成を求めた面々。前原氏は最終的には細野氏を支援するとの見方が強いが、同氏の協力要請に対してなかなか首を縦に振ろうとしないのは、グループ内に主戦論があるためだ。

4者会談に先立ち、前原グループ（凌雲会）は都内の中華料理店で会合を開き対応を協議。約10人が出席する中、渡辺周・元防衛副大臣が「前原氏は出馬すべきだ。そのための凌雲会だ」と訴えるなど、約半数が主戦論を唱えた。

凌雲会としてキャスチングレポートを握りたいとの思惑も見え隠れする。前原氏は周囲に「岡田氏が出馬するなら（岡田氏への）支持は集まるのではないかと」と漏らし、細野氏を牽制する態度もみせる。

凌雲会の会合後、前原氏

は記者団に自らの出馬に関して「全く白紙だ」としたが、その一方で、ふさわしい次期代表像について「首相になる覚悟のある人だ」と語り、細野氏に高いハードルを突き付けた。

▼「昔の名前ダメ」

大島章宏前幹事長率いるグループ（素交会）も国会内で会合を開いた。事務局長の篠原孝・元農林水産副大臣は会合後、記者団に「昔の名前はかりではダメだ」と述べ、新しい顔ぶれで代表選を行うべきだと強調した。

もっとも、大島氏は海江田氏に近く、海江田氏は党再建派だった。篠原氏は「党の再建を行い、分裂回避を模索している人（がいい）」とも語っており、海江田氏と同じく党の再建に軸足を置く岡田氏が出馬した場合、岡田氏の支援に回る可能性は高い。

▼まずは独自候補

赤松広隆前衆院副議長も海江田氏を支えた一人。ただ、その赤松グループ（サンクチュアリ）は、まずは独自候補の擁立を目指す。自らのグループを高く売る狙いがちらつく。

社会保障・税一体改革を岡田氏と成し遂げた野田佳彦前首相のグループ（花斉会）も、岡田氏の支援に回りそうだが、静観してい

る。参院側には、非労組系の間で羽田雄一郎参院幹事長を推す動きがある。羽田氏周辺は「推薦人20人はすぐに集まる」と豪語するが、こちらも狙いは同様だ。このほか、馬淵澄夫選対委員長が出馬に意欲を示し、若手を中心に当選3回の玉木雄一郎政調副会長を推す動きがある。